

説明： 著作「真の宗教」の第7章。いかにして神による真の宗教を認識すべきかという主題の結論。  
より Dr. ビラール フィリップス

掲載日時 22 Sep 2014 - 編集日時 22 Sep 2014

カテゴリ： [記事](#) > [イスラームの真実性を示す数々の証拠と奇跡](#) > [論理的根拠](#)

これまでの説明で、イスラームという宗教の名称は、イスラームの最も根本的な原理である神への服従を表現し、「イスラーム」という名称そのものも、イスラームの経典において、人間ではなく神によって選ばれたものであるということが示されました。また、神の独自性と神の属性、そして仲介者を通さずに神を崇拝することを説くのはイスラームだけである、ということも示されました。そして、人間は本能的に神を崇拝するよう創造されていること、また歴史を通して神は各人にしるしを示し続けてきたことにより、イスラームはあらゆる時代のあらゆる個人によって実践することが可能であるということも述べられました。

要約すると、イスラーム（神への服従）という名称の重要性、イスラームによる神の独自性の強調、そしてイスラームがあらゆる時代の人類に適応しているという事実は、歴史の始まりから、どの言語によって表現されているのであれ、イスラームこそが神による真の宗教であるというイスラームの主張を立証しているのです。

最後に、至高なる神が私たちがこれからも正道の上に導き、私たちに祝福と慈悲をお授けになることを祈ります。かれこそは最も慈悲深き御方です。全世界の主である神に称賛あれ。そして預言者ムハンマドと神の預言者たち、彼らに従う追従者たち全員に平安と祝福あれ。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/467>

Copyright © 2006-2013 [www.IslamReligion.com](http://www.IslamReligion.com). All rights reserved.